



研究会・研修会等への 報告者・講師の派遣

(平成十一年二月～三月)

○全国農業土木技術連盟北海道
地方連絡協議会設立20周年

・記念講演会

主 催 全国農業土木技術連盟北

海道地方連絡協議会

と き 平成11年2月22日

テーマ 「これからの地域農業・

農村のマスター・プラ

ン」―その3つの要素―

講演者 七戸 長生 (当研究所・

所長)

○平成10年度十勝地域畑地用水検

討協議会・講演会

主 催 十勝地域畑地用水検討協

議会(帯広開建・十勝支庁)

と き 平成11年3月2日

テーマ 「野菜生産・流通の現状
と十勝における産地形成
の課題」

講演者 富田 義昭 (当研究所・
常務理事)

○第9回北海道有機農業技術交換
発表大会

主 催 北海道有機農業研究協議会

と き 平成11年3月12日

テーマ 「有機農業の展開と認証
制度―北海道の特質をふ
まえて―」

話題提供者 酒井 徹 (当研究
所・専任研究員)

○愛別町農業推進協議会合同会
議・研修会

主 催 愛別町農業推進協議会

と き 平成11年3月25日

テーマ 「地域農業振興計画策定
の視点と実践の検証」

講演者 佐伯 憲司 (当研究所・
研究部長)

離農に関する情報

平成九年道離農実態調査から

道農政部の農地調整課がまとめ
た「平成九年北海道離農実態調査

結果」によると、平成九年中に離
農した一、二六四戸(前年比五
五%減)の農家の大半が空知、上
川の二支庁で占め、経営形態別
に見ても、稲作農家が五七、五%の
ウエートとなった。

近年の農業情勢、構造問題の影
響が本道の稲作を直撃している実
態が明らかになった。

また構造問題で見ると、離農農
家中、世帯主が六〇才以上の構成
比が六六、八%と七割近くを占め
る勢いで、離農理由の四八、一%
が後継者問題となっているなど、
高齢化に後継者問題と労働力不足
の深刻な影響が引き続いた。

更に規模で見ると、五畝未満の
階層が五一、二%と半数を占め、
小規模を中心とした離農が続いた
が、残りの半数のうち一〇、二〇
畝が一四、一%、三〇畝以上階層も
平年ペースでの離農が続いている。
離農した農家の処分面積は一〇、
三九二畝で跡地の処分は売買と賃
貸がほぼ半々となっている。

市場法が改正される

今までのように、上場するため

に実際に野菜や果物を混雑する市
場まで搬入して、暑い中で何時間
も放置しなければならぬという
事が無くなり、サンプル程度で取
引が可能になるようである。これ
は北海道にとって朗報と言える。
保冷輸送技術が進んでニュージ
ーランドからスイートコーンやオ
ーストラリアからアスパラガスを
運べる時代と言っても、輸送中に
野菜にかかるストレスは相当なも
ので、それが店頭での「棚持ち」
日数に影響があることは経験的に
皆知っている。

有機、減農薬がもてはやされ、
地場消費が脚光を浴びる時代では
あるが、府県的情勢、そして北海
道の畑作主要産品の状況を考える
とき、今後、野菜の生産と消費は
北海道の畑作農家にとって益々重
要になってくる。

量のメリットを最大限に発揮し
て、長距離輸送のハンデを乗り越
えて、クーリングで安心して食べら
れる、糖度の乗った野菜を府県市
場にいかに売り込むか、市場法の
改正を契機に知恵を出し合う必要
がある。

編集後記

※「ロシアの地震の際に、発生と同時に国際ボランティアとして日本の医療チームが派遣されると言うニュースが流れて、神戸の震災以来日本も変わったものだと感じた方がいらしゃるのではないか。

経済問題一つをとっても世界情勢抜きでは今後を語れない時代と言う実感はあるし、子供達は衛星放送でイタリヤやブラジルの試合を楽しむ時代である。それでも個人的には「コンサドーレよJリーグに復帰だ!」と思っただけである。

※アリの行動について研究している学者のエッセイの中に、我々が抱くイメージとかけ離れた部分があったので紹介したい。

聖書の箴言の書の中にも「怒情なものよ、アリの所に行け。そのやり方を見て賢くなれ」とあるように、一般的にアリは勤勉の象徴のように考えられているが、実はアリの集団の中で働く個体は二〇%に限られていて、残りのアリはただぶらぶらしている事が観察された。

働き者のアリだけを隔離して見ると、

DATA FILE

関連事項/DATA

北海道大学

〒060-8589
札幌市北区北9条西9丁目
☎ 011(716)2111

釧路公立大学

〒085-0061
釧路市芦野4丁目1番1号
☎ 0154(37)3211

ホクレン農業協同組合連合会

〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目
☎ 011(232)6108 広報宣伝課

北海道農業開発公社

〒060-0005
札幌市中央区北5条西6丁目
☎ 011(271)2231
農地開発センター内

栗沢ラインガルテン

〒068-0111
空知郡栗沢町字由良563番地5
☎ 0126(34)2150

栗沢町役場

〒068-0123
空知郡栗沢町東本町21番地
☎ 0126(45)2411

その中でやはり二〇%が働いて八〇%が怠け始める事が判り、また怠け者のアリだけを隔離すると、その中の二〇%が働き始めるそうである。

また、アリは自分の所属する集団内のコミュニケーションは非常に密で、助け合ったり仕事を分担したりするが、他の集団に対して関心を示さない点でも、他の、集団を形成する動物と異なる特徴だそうである。

我々日本人は勤勉だと言われており、確かに第2次大戦後の復興がそれを裏付けていると言われたものである。(最近あまり聞かれなくなりましたが)我々もこのアリの行動学と同じ傾向を

持っているのかも知れない。

※ 国土地理院が西暦二〇〇〇年に日本の経緯度変更を行うことはあまり知られていない。

現在日本地図に表示されている経緯度は、明治時代の測量に基づいたもので、人工衛星による最近の調査によって、例えば高知市では経度が九秒、緯度が二二秒ずれていることが判っている。この九秒の誤差が実際の距離にすると約四三〇mになるそうである。

修正である。当時の測量技術の精度の問題とその後の一〇〇年間の地殻変動が原因であるが、これを国際基準に合わせ手修正

すると言った。

これまでカーナビや外国船が日本に寄港する際には、衛生からの情報を日本の地図に合うように修正する必要があったがその必要が無くなる。農業分野でも例えば気象データ処理などに関わりがあるようだ。

しかし一方ですでに発行されている膨大な量の地図全国に一〇万点ある三角点の変更に必要である。富良野にある北海道のへその位置もずらさなければならぬのかと一瞬思ったが、あれは北海道内の問題なので一つ。